

豊潤の里 だより

東広島市、住民すべての合意形成が前提だが

～ 5 年前の事前協議書への回答から ～

栗本ホールディングス（以下栗本 HD）は平成 29 年 8 月、「産業廃棄物処理施設の設置に係る事前協議書（以下事前協議書）」を広島県に提出しました。この事前協議書は、事業者が廃棄物処理施設を造るとき、予め県に事業内容等について提出しなければならない書類のことです。そこには、施設の種類（木谷の場合は管理型処分場）、設置場所、産業廃棄物の種類、施設の規模等が記載されています。

広島県はこの事前協議書をもとに関係地域を指定し、事業者による地元説明会の開催などを通して住民との意見調整を促し、最終的に両者が協定書を結ぶことを指導します。それが終わって事業者は、次の本申請に入ります。認可するかどうかを決定する権限は広島県にあります。その前に関係市町長の意見を聞くことになっています。

そこで今回は、東広島市回答の一部の中から赤崎最終処分場建設を巡っての問題点を整理したいと思います（以下要約）

1. 生活環境部・安芸津支所

- 赤崎地区の土壌は赤土で、一般の土壌と比較して雨水に対して流失しやすい。そのため以前、農林水産省の農業構造改善事業の基盤整備に際して、盛土等が頻繁に流失し、事業の竣工に多大な時間と経費を要し、盛土流失により河川及び海洋汚染もしばしば発生している。また近年のゲリラ豪雨などにより災害等の発生が懸念される。
- マル赤馬铃薯の産地であることから、じゃがいも畑への影響（風評被害も含む）。
- 大型車が進入した場合、生活者・農地耕作者等の通行が制限されるため、住民生活の安全確保が懸念される。
- 「動物性残さ」とあるが、動物死骸を排除すること。

2. 産業部

- 赤崎上集落協定のエリアであり、中山間の協定農地は原則として農地外に転用することはできない。そのため集落協定を廃止するとともに、交付金返還が必要である。
- 安芸津農地・水・環境保全管理協定運営委員会（活動組織）の活動変更と交付金返還。
- マル赤馬铃薯生産者、三津湾のカキ養殖生産者への十分かつ真摯な説明責任を果たす。

3. 教育委員会教育部

- 通学路及び生活道路における、児童生徒及び地域住民の安全確保が懸念される。

そして回答のはじめには、「この計画の推進には、・・・住民すべての合意形成が前提」と記されています。しかしながら広島県は、廃棄物処理法に照らし、栗本 HD からの書類に不備が無ければ建設を許可します。資本主義は資金力。お金にものを言わせ、平穏で安全な生活を奪い、豊かな自然を壊してよいのか。道理に則り地道に取り組んでいきましょう。

鎌倉殿と木谷村（2）

～ あの土肥実平は、小早川氏の祖先 ～

慶寿院 矢原大和



土肥実平の木像

15年あまり前に、謡曲の研究家で梶谷さんという方が、「和田義盛の墓といわれるものは、慶寿院にありますか」と尋ねて来られた。「謡曲の中に『七騎落（しちきおち）』というのがあるのですよ」と言って資料をくださり説明された。

源頼朝は、最初に伊豆の石橋山で挙兵するが、敗れて真鶴の海岸から遥か対岸の安房国に落ちのびる。船を用意したのは湯河原の土豪・土肥実平とその子遠平であった。急ぎ八人乗り込んだが「八人乗りは不吉だ。頼朝の父義朝も祖父の為義も、何れも八騎で逃れて討たれている。一人減らすべきだ」という声があがる。誰か一人降りることになって争うが、親子二人の土肥実平の息子・遠平が降りることになった。父の実平は、敵が追い来るなかで見事に討ち死にせよ、と涙ながらに息子の遠平を浜辺に残して船出する。

一方、追う平家側の中にいた和田義盛は、源氏に心を寄せていた。浜辺に残って決死の遠平を、生け捕ると見せかけて船底に匿い、頼朝の船に追いつき、本心を打ち明けて頼朝の味方になると言う。その時、船底から土肥遠平が現れる。父の実平は夢かと歓喜して遠平と抱き合う。それから頼朝一行は、安房国に上陸して源氏再興へと進むのである。

以後、頼朝軍は安房から上総へと軍勢を集めて逆襲し、鎌倉に入っていく。土肥一族は和田義盛への恩を決して忘れない。後に土肥氏は安芸国に来て、沼田本郷を本拠地として「小早川氏」を名乗る。小早川氏は西南方面に支配を延ばし「三津三浦（木谷・三津・風早）」に進出してくる。

以後、頼朝軍は安房から上総へと軍勢を集めて逆襲し、鎌倉に入っていく。土肥一族は和田義盛への恩を決して忘れない。後に土肥氏は安芸国に来て、沼田本郷を本拠地として「小早川氏」を名乗る。小早川氏は西南方面に支配を延ばし「三津三浦（木谷・三津・風早）」に進出してくる。

こういうドラマチックな場面をとりあげた謡曲「七騎落」は、劇的な現在物（生きている武人が主人公）で有名という。あの豪快な和田義盛は最後には北条義時と対立して「和田合戦」を起こす。しかし、敗れて討ち死にしたけれど、その子孫はお互いに恩義ある土肥実平の領地を頼って落ちのび、小早川領に入り、その西南の地の三津・木谷の山中に住まわせてもらったのではなかろうか。木谷城主の木谷氏は、小早川の家の子・一族である。

土肥実平は有力御家人であるが、13人には入っていない。土肥氏と和田氏の深い恩義の仲を想うと、謡曲「七騎落」のゆかりの地に木谷村も入るのですよと言われたのである。

さて、「鎌倉殿の13人」の過酷な権力闘争のなかで、和田義盛や土肥実平などはどうなるのか、目が離せない。「鎌倉トンネル」と「和田義盛の墓」、そして木谷氏の後裔は・・・、大河ドラマを身近なものとして楽しみましょう。・・・ひょっとしたら、我が家は和田義盛の末裔かも、いや土肥実平の流れに違いない・・・。まさか、伝説だよ。・・・まあ、おおいに楽しみましょう。

（令和4年9月記述）

木谷地域の歴史遺産・文化の 継承活動を通じたまちづくり

木谷自治協では、令和4年度の「市民協働のまちづくり活動応援補助金」を活用してまちづくりを推進する事業を展開中です。

これまでの実施内容

- ① 木谷や安芸津の歴史や文化に関心のある人が集まり、地域の歴史や文化を次の世代に引継ぐべく、それらを学ぶ勉強会を定期的を開催しています。

6月22日 木谷の歴史概説

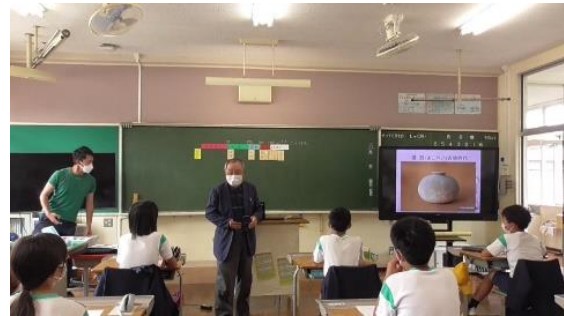
7月27日 漂流記の世界

8月25日 木谷と重松神社

9月22日 安芸津周辺の地質と地層について

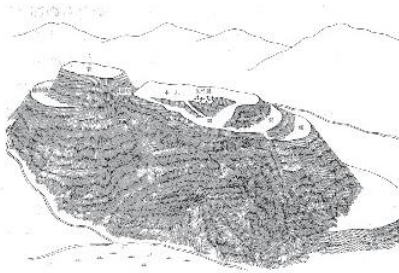
- ② 木谷小学校で郷土学習

5月26日 木谷小学校で6年生を対象に
「木谷の歴史」を紹介



検討中のもの

- ① 地域にとって由緒ある場所や遺物を紹介（看板等の設置）



- ・中世の山城跡・重信城址
- ・木谷城主等の古墓群



- ・廻船問屋「元屋」の屋敷
- ・木谷の変化を象徴する宮沖新開の変遷

- ② 二馬手塩田遺構の文化財指定を
記念するイベント

※ 文化財指定：現在東広島市では
指定に向けて検討中です。



部会活動紹介

福祉生活部会



8/6 熱中症予防にお茶と塩飴配り（友愛訪問）

猛暑の日々が続く中、各地区の区長さんが高齢者の見守りを兼ね、お茶と塩飴（塩分チャージタブレット）に熱中症予防の説明書を添えて292の対象家庭を訪問しました。

<区長・地区社協 蛟龍・木谷自治協>



9/10 今年の「福寿の会」も記念品贈呈のみにコロナ禍が収まらない中で迎えた今年の福寿の会。昨年に続いて、感染予防のため、記念品の贈呈のみとなり、区長さんにより敬老対象者306名に贈られました。

<福寿の会実行委員会>

次世代部会



8/19 木谷郷川河口周辺で「カニカニ大調査」

古本敦子さんが講師を務める観察会に、保護者と子どもたち18名が参加。今回の調査では木谷郷川河口周辺で12種類のカニを発見。いくつかの種類はその数も膨大であることが分かりました。木谷郷川を流れる水が栄養豊富であることの証拠だそうです。

<木谷はっけん野あそび会>



9/8 地域も協力して「ホボロ島学習」

木谷小5年生が木谷地域の地質や生物の多様性を現地で学ぶこの学習会。鼻繰島とホボロ島には増田典生さん、山平忍さんが操縦する船で島に渡りました。島では子どもたちが見つけた生き物について、講師の古本敦子さんと上田康二さんが解説しました。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和4年8月末現在	682	1465	720	745
令和3年8月末との比較	-10	-45	-19	-26